

風

発行所
堀田賢逸後援会

平鹿町醍醐字醍醐98-2
TEL 0182-25-4011
e-mail: iohotta@rnc.ap.jp

上水道設置陳情採択なる（平鹿町議会） 流雪溝も同時要望（国交省湯沢出張所）

上通り 下通り 石成三地区

石成、通り醍醐地区の地下水は良質豊富で地域の自慢であつたが、近年地下水の低減により冬期の渴水が恒常化し日常生活に多大の不便と出費を余儀なくされていた。

それが十一月議会に上水道設置を陳情し採択され「一方国交省湯沢工事事務所国道維持出張所へ流雪溝設置の要望書（町經由）も提出し大橋交差点改良工事と同時進行に期待をよせている。

昔から醍醐郷は篠田、石成などの地名が示すように南北に疊層が続いている水がよく地震に強い地域として知られている。しかし昭和四十年代世はイザナギ景氣、農村でも住宅の新築ブーム、自家用車（3C時代）の普及、果樹の増反、開田などで地下水利用は一挙に数十倍にふくらんだ。昭和五十年代に入つてその流れは更に大きくなり地下水位は十メートル以上も低下した。

一方平鹿町でも昭和五十八年「平鹿町醍醐簡易水道」を設立、水源地を下醍醐に求め給水を開始した。それに関連し醍醐郷六集落では井戸の枯渇を懸念し同年十二月八日佐藤町長へ「水道事業による井戸の渴水時には給水措置などの対策」を要望している。ところが案の定、翌五十九年には二月に入つて井戸の渴水が相つき、下通りを水源としている大橋水道組合へ給水の中止を申し入れたりした。

更に翌六年も一月六日より渴水が始り、以後毎年のようにそれが繰り返されるようになつた。平成八年十一月一日三地区ではついに最上屋町長へ「上水道設置」を要望した。翌九年一月十七日には伊藤善明氏の敷地内にある町の井戸も緊急時には利用させていたくよう請願し承諾を得た。

平鹿町上下水道計画の周辺

平鹿町の下水道計画は平成五年に発表されたとしているが、その計画書が三地区的全戸に配付されたのは同八年四月であった。その計画によると三地区は平成十七年とされ

上水道も同時施工の報に胸をなでおろした。しかも最上屋町長は平成二十年以降の公算が強くなつた。前述のように三地区の生活用水の確保が逼迫している時にこれが一大事である。合併問題も抱え危機感さえ生れた。

三地区では堀田町議と共に直ちに行動を開始した。平成十四年八月二十二日三地区協議会を皮切りに同二十九日三地区上下水道説明会（大坂谷水道課長・佐藤上水道係長・佐藤下水道係長）以下、独自資料作成、地区ごと説明会、三地区上下水道設置促進協議会設立（会長高橋峰男）など集会七回を経て四〇九名の署名を集め十一月二日真田平鹿町長へ陳情書を提出した。（高橋会長他四名）

そしてこの陳情は十一月十七日議会で採択となり、それを踏まえて町長へ付託していた「流雪溝設置」の要望書を十一月十九日、国交省湯沢工事事務所国道維持出張所へ平鹿町長名で提出した。（持参説明者は佐藤建設課長・大坂谷水道課長・菊地建設係長、高橋会長、堀田町議の五名）それに対し竹内将廣所長は理解を示され、本流雪溝計画を「雪道計画」（既存計画）に編入、見直しするよう指導するなど好意的に接してくれた模様だ。

この流雪溝と上下水道の同時施工を提案したのは三地区側であり地区民のみならず町のメリットも大きい筈、町もやる気十分といったところか。

一、上水道設置には必ず下水道も同時施工されなければならない原則があり、大橋方面とつなぐとすれば施工は平成十九年以降となることが予想される。更に下水道加入施設費の問題もある。また「特定生活排水処理事業」を適用すれば施設費も軽減されるし下水道への加入も緩和される。

二、下水道を止め合併浄化層にすれば設置時期は早まると考えられる。また「特定生活排水処理事業」を適用すれば施設費も軽減されるし下水道への加入も緩和される。

三、一、二項を踏まえ町と共に国道維持出張所への働きかけをしてはならない。着工までは気が抜けないだろう。

これらの他にもクリアしなければならない問題があるやも知れないが、地域の誠意ある盛り上りと団結がそれを解決していくだろう。新春にあたりこの運動がめでたく成就すると共に地域がますます発展することを願つて止まない。

年頭にあたつて

後援会長 藤原 正

会員の皆様、明けましておめでとうございます。とにかく五体満足で新年を迎えたことは幸いだったとか言いようのないお正月であります。

昨年は申すまでもなくこの町の基幹産業である農業にとって最悪の年でした。米の作況97%は致し方ないとして

雪害・霜害で大きな打撃を受けたいやな年が明けた。今年こそいい年であることを誰もが願っているのが、兆しは見えない。それどころか、4月から年金の引き下げがとりざたされているし、医療の負担金があがるなど弱者への風当たりが強まりそ

うだ。それに、合併問題が横たわる。住民の関心は薄い。政府の期限付きの強い要請に迫られて当事者が重い腰を上げた。しかし本当のところどうしたらいいのか誰もわからない、という現状のようだ。何故いままでこんな不況なのに政府は大豊作を得るよう頑張つて下さい。町の応援を検討していると堀田町議から、りんごは天候不順により未曾有の災害を蒙りました。生産者の皆様には心からお見舞い申し上げます。町でも何かしらの応援を検討していると堀田町議から、さき少しあはれを樂にしていますが、百歳の不屈の精神を大いに發揮して今年は大豊作を得るよう頑張つて下さい。

新年早々の新聞でも今年は景気が上向くことはなく厳しいだろうし、市町村合併は進めなければならぬとしていました。他にはこんな不況なのに政府は財源確保に消費税上げをチラつかせるなど目障りな記事もありました。こうした時、私達は下手にもがかず、じつと耐え、本業に精を出すのが一番だと思います。ただ健康には充分注意しないと頑張ることができません。そしてみんな仲よく助け合つて暮らすことが町を明るくするでしょう。

さて昨年堀田議員は新人らしく精力的に調査や議会活動を展開して参りました。石ノ塔の流雪溝陳情支援を手始めに、通り石成の上水道流雪溝設置を先導台に展開されてきたし「負担は高くサービスは低く」なったのがこれまでの一般的な帰結と言つてはいる。それより、住民は、行政のサービスの受け手のみならず、地方自治のあり方を決める主権者たり得るか否かで、重要なポイントであるように思える。▼最終的には住民の意見とはいうもののそれをどう掌握するのか。住民投票という最も民主的な方法をとつたがしこりを残した岩城町の例もある。▼しかし避けてとおれない。冬の「風鈴」と洒落こんで、潜めたい心境だ。

風鈴



「介護施設問題について」

明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひします。

さて、先日、横手市の知人から「介護度4の親2人の面倒を見ているので疲れてる。平寿苑に申し込んだがどうなつてたのだろうか」と相談を受けました。

そこで平寿苑に行つて聞いてみましたがところ

横手市への割り当ては4部屋で待機者は75人おり、その方は61番目で入所はいつになるかわからないとのことです。

これは大変なことになつてゐると思い、いろいろ調べてみました。

その結果は左の表のとおりです。待機者の多さに驚きました。その理由の一つに

同一人物が何箇所にも申し込んでいるためとのことです。しかしそれを差し引いても20人ほどが待つてゐることに変わりはありませんでした。この件で9月に一般質問をしました。

それでわかつたことは平成15年度中に横手市の特別養護老人ホーム2カ所で

平成16年度中には大森町、雄物川町の既存施設にそれぞれ30床の増床が計画され

れていること、さらに介護老人保健施設については平成16年、我が平鹿町に医療法人が運営する100床の施設が計画されています。これで合計220床です。こ

こ何年かこのような施設を利用する方が増えることも予想されます。

しかし本人の希望は在宅でのサービスが一番だと聞いています。そういう意味で在宅と施設、両方のサービスがあるわけです。

特別養護老人ホーム、横手市平鹿郡内の状況

2002.9.11現在 平寿苑の場合

町村名	割り当ての部屋	待機者
平鹿町	25	91
十文字町	9	31
増田町	6	30
横手市	4	75
雄物川町	3	28
山内村	3	34
大雄村	0	10
合計	50	299

その他の施設 2002.2月現在(※在宅待機者は7月1日現在)

市町村名	施設名	定員	待機者	在宅待機者
横手市	すこやか横手	50	203	74
増田町	いきいきの里	50	89	19
平鹿町	平寿苑	50	210	22
雄物川町	雄水苑	50	75	25
大森町	白寿園	100	143	27
十文字町	憩寿園	54	95	26
山内村	鶴寿苑	50	74	17
大雄村	すこやか大雄	50	173	5
合計	8施設	454	1062	215

風によせ

伊藤富二郎

風は訓読で「かぜ」音読で「ふう」であるが「かざ」や「ブウ」

「ブ」「ブ」など読み方も多岐でその語意も広く深く多様で変化に富んでいる。

そんな「風」を私は殊のほか好きである。何故かといえば、本質的にどうえ所がなく、飘々として、それでいてユーモラスでロマンがあり、何よりも自由軽快な感じがいい。

ただ世の中には上には上がって、風から生れてきたような人がいて(山田風太郎)戒名も「風々院風々居士」とは恐れ入る次第である。

ところで「かぜ」の表意は空気の移動であり、辞書には様子、素振、なりゆき、態度などとあり、「ふう」には、風が起る、ならわし、

体裁、精神的傾向、ある生活様式などの意があると書かれている。さてこの「かぜ」と「ふう」が混然一体となつているものがある

とは不思議な気さえするが(楽器など)なかでも自然の風をとらえて、その「かぜ」と「ふう」が混然一体となつているものがある

日本人は音に対する信仰心の強い民族と言われているが、風を音に

変えて楽しむ風流のわざを最初に考えついたのは一体、誰なのだろ

うか。自然と調和したその音は人々の心にしみわたり、疲れた心

を癒し、荒れた心を和ましてくれる。

私はその風鈴に魅せられて、いつしかそれの虜になつていた。岩

手の手作り村で南部鉄の風鈴づくりを見学したり、東京にいた娘と

台東区の江戸風鈴のガラス工房を訪ねたりもした。そして気がつい

た時、四十数個の風鈴が集まつていた。

私は南部鉄官造風の三キロ重、小は江戸風鈴のイヤリングセン

チものなど、近年は音を聞くと共に眼で楽しめる風鈴モドキや、風

土を感じさせる風鈴も多くなり楽しきの空間は一段と広がり、真に

風情豊かといったところであろうか。

一方、本紙の名称「風」を決めるに当つては編集委員会で検討さ

れ風のもの多様性に愛着や興味がもたられ全員一致で採用となつた。

考えてみると、情報(風聞、風評)時流(風潮、風雲)思考(風

流、風刺)性質(風土、風景)情緒(風姿、風情)

などのほか八風(八方向の風)も会報に必要な風である。

一年半前、汚染された平鹿町議会に風穴を開け、風通しをよくし

ても徒に風まかせや風に紛れを求めて、出直し町議選に新風が生れ

たことは喜ばしい。順風を祈るのみである。

コラム欄の「風鈴」は編集長一任で決定したが、私達に異論があ

るう筈もなかつた。唯、風鈴のよくな、やさしいコラムからはみ出

ることが懸念される。二号の本らんは、さしつめ半鐘に新しい音を發したように思う。しかしそれも風次第か。風のある所に季節があり

この風雪が止めば春一番も近い。風は万物を育んで止まないのだ。

川柳のおもしろさ

伊藤 武三

川柳というのは、世の中を斜めから見て、ユーモラスに生活をうたつたり、皮肉つたりして楽しむ自由な芸芸である。私はこの頃この会に出て川柳を作つたりして遊んでいます。

たまにはこんな人々のゆとりのある心を味わつてみたいのだ。他人のものや自分の愚作などを次に紹介してみる。

ふところに隠す程でもない導

きな噂でも聞いておきたいもの、人の悪いクセ。

春雨じや濡れていこうのせりふを知つてる人が多いんだつた証拠。

美しい人をああ良い人だつたと思つてゐる人が逝つた人をああ良い人だつたと思つてゐる人が紹介してみる。

好きだけ飲ませたかた基がある

またいるんだ。

ふところに隠す程でもない導

きな噂でも聞いておきたいもの、人の悪いクセ。

春雨じや濡れていこうのせりふを知つてる人が多いんだつた証拠。

秋田の人は酔うとそろそろしゃべり出す。

退院の部屋に笑いをおいて来る

春雨じや濡れていこうのせりふを知つてる人が多いんだつた証拠。

醉う程にみんなぞろぞろ評論家

堀田賢逸後援会・総会ご案内

とき・・・一月二十六日(日)

じかん・・・十四時00分

ところ・・・創作館